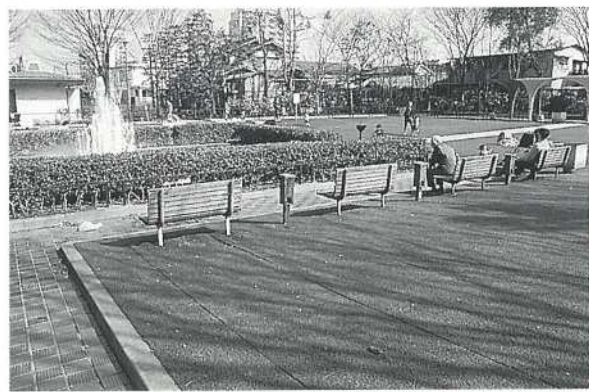


自分たちがつくった公園

きました。その辺のところを率直に。今、小さい公園がほんとうに増えたんですね。家が二、三軒ぐらしか建たないようなところに公園ができる。たとえば、深沢四丁目公園というのがちようちの裏側の狭いところにもあるんです。公園という名前をつけると、ぶらんことか、すべり台とか、砂場とかをちゃんとつけなければならぬという規定があるらしくて、必ずそういうものがついている。ちゃんとしていることはちゃんとしているんですけど、子どもがどっちで遊ぶかなと見ていると、やっぱり、自分たちが作り出した公園のほうへ行く。でき上がった公園で遊ぶというのは飽きちゃう。逆に、そういうでき上がった公園が増えてしまっているし、広場もいっぱいあるけど、駐車場に変わっちゃったりが多いでしょう。駐車場とかビルに変わるのを防ぐために区では公園を作っていると思うんですけど、その公園というものの考え方がちょっと違うんじゃないかなと思うんです。子どもにしても大人にしてもそうだろうと思います。何かでき上がったものを見れば、あれはこの辺にこういうものが置いてあったらいいんじゃないかとか、この辺はこんなものになるんじゃないかとか、そういう感じで自分たちで考えて作れるものができたらいいなと思います。

進士 住んでいる人が、ああしたいこ



心やすらぐひろば

うしたいという思いを全部入れるのが、理想的な公園のあり方だと思わんですが、今はちようち過渡期なんですね。公的には「空き地」というのはないものですが、空き地として公共的に担保するために、公園のような仕組みを作ったときに、「何も無いじゃないか」という人に意外とお母さん方が多い。小さな子どもも、何も無いと何をやっていいかわからないんです。やっぱり最初のよりどころはブランコとかすべり台とかそういう遊具なんですね。それからもう一つ法律的にいうと、事故なんですよ。事故をおこすと、区役所が悪いということになって、どうしても安全第一にすることになる。市民が、だんだん「自分たちで管理するから、もう任せてくれ」、「安全の問題

も自分たちで責任を持つから、任せてくれ」というような考えを持ってそれを実行してくれれば、いいデザインの公園ができるはずですよ。

「住めば都」の魅力を感じる

沢田 世田谷に住んでいる住民はそんなに古くないと思うんです。昔からの住民は非常に少なくなっただけで、僕が二十二年間住んでいて感じること、その間にものすごくよそから住民が流入してきているんです。統計的なことでよくわからないんですけど、世田谷の住民の中の五割以上はこの二十年ぐらいの間に外から入ってきた人じゃないですか。そういうふうには、よそから流入した



したが、さらに今後も機会を作りこうした議論を深めていきたいと思っております。本日はお忙しいところほんとうにありがとうございます。

風景のあるいいふるさとを作っていく、これは若い人達の課題でもあるんですよ。福田 若い人の指摘には鋭いところがありますね。一生住む住まないは別にしても、学生時代に世田谷に住んだということは第二のふるさとになるっていうことですから。司会 まだまだ興味深いお話がつづくと思いますが、若い世代も含めていい風景のあるまちづくりに積極的に取り組んでいく、「せたがや百景」のねらいのようなものがよく見えてきたように思います。私どもの仕事を進めていくうえでも今回のお話は大変役立つものばかりでした。残念ながら時間がきま

新しい住民が増えているんだから、どうしても新しい土地とのかかわり合いが薄いと思うんです。それをもっとと親密化するためにはこういう「百景」が選定されるなんて運動は非常にいいことだと思えます。ただそれをできるだけ住民の日常の意識の中に取り込ませるようにはいろいろやってみようと思います。福田 「住めば都」というのは、私は大変いい言葉だと思っただけでも、世田谷は東京二十三区の中で最も好きなんです。というのは、やっぱり家があつて仕事をするところもある。だから、どこへ行つても、帰つてくると「帰ってきた」という安堵感があるわけですよ。そういう意味で、私は自分の生れ育ったところが異国の「満州」でしたから、世田谷がもう故郷みたいなものです。ただ、世田谷区に住んでいる人が全部「住めば都」で世田谷を感じてくれているかというと、そうではない。だから、この「せたがや百景」

にどんどん馴染んでいって、世田谷に住んでいる人が世田谷は住めば都だと感じてくれば、もう成功なんですね。沢田 ときどき考えるんですけど、たとえば、少しでも多くの人に苗木を分けて、家の周りに植えて大事に育てていってもらうとします。そうするとつと緑が増えるんじゃないかって。まあ手工業的に過ぎないかもしれないけど。進士 学生でも、サラリーマンになつてからでもいいけど、若い人達がボランティア活動をやってもらうのがいいんじゃないかと思うんです。植えた木に愛着を覚えて、この木は自分たちで手入れし育てていこうというふうになつてきたらすばらしい。公園づくりなんかでも、役所ももっとそういう工夫をしなくてはいけません。沢田 沢田さんのような若い人達の力がこれからは必要ですよ。世田谷には若い人達がたくさんいるから、そのエネルギーを生かさないで、いい

百景選定の趣旨と経過

りを考えてゆくきっかけにしようというのが「せたがや百景」を選ぶ趣旨でした。考えるためにはまず知らなければならぬ。なじむ必要もある。そういうことで現地への百景サインの設置をはじめ、「切り絵葉書」を発売したり、区役所や教育委員会の事業にいろいろな形でこの「せたがや百景」が取り上げられております。

しかし、いつまでも百景のPRばかりをしているわけにはいきません。もうそろそろ百景を活かした、あるいは百景を支えるまちづくりを考えなければならぬでしょう。この本でもおわかりのように、実に多くの方がたが百景を守るために苦労されていらっしゃる。誌面の都合でくわしくご紹介できなかった風景においても同様です。この方がたばかりに屋台骨を背負わせていないで、ひとつ、区役所も企業も区民もみんな力を合わせて百景を大切にしてくる必要があると思います。

たとえば、それぞれ役割分担して、百景とその周りを汚さない、汚れている場合はきれいにする、百景の持つ雰囲気・建物を自衛する、さらには街並みの統一や緑を豊かにしてゆくなど、できることから始めて徐々に好ましい風景の広がりをつくってゆくことを考えてはどうでしょうか。

いま区役所では、魅力あるまちづくりを行政・企業・区民の三者がそれぞれ責任を持ち協力しあつてすすめる根拠となるルールづくりを考えております。これまでの役所側からの規制や誘導に頼るだけでなく、お互い納得しあつて運動的に展開しようということです。そのために、どういうはたらきかけをするか、仕組みをつくるか、いろいろ課題はありますが、そう遠くない将来に具体化するでしょう。その場合、百景という区民が選んだ貴重な財産を守り育てる有効な手だてとなるはずですよ。

(世田谷区企画部都市デザイン室 田中勇輔)



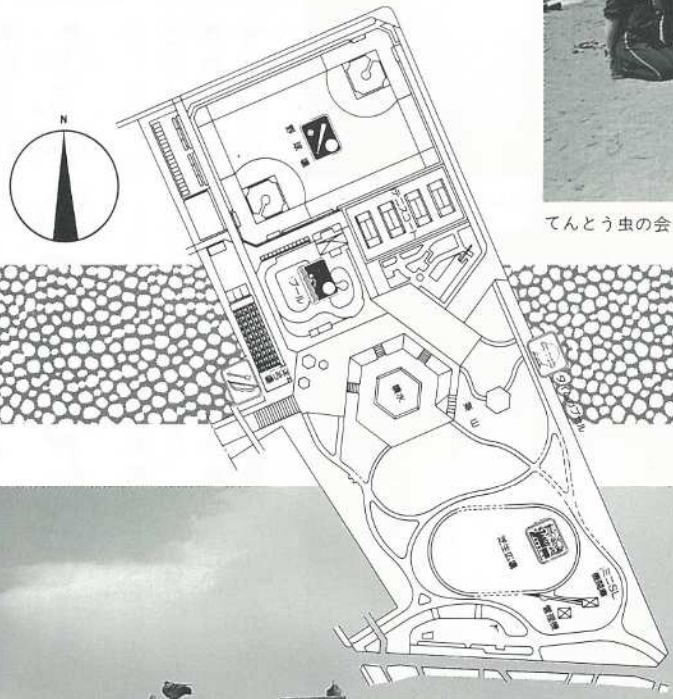
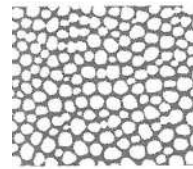
太子堂下ノ谷界わい⑤ 切り絵葉書 後藤伸行



ゴーカートに夢中①



てんとう虫の会



世田谷の公園



小高い丘にはタイムカプセルが埋められている①

プレイパークを拠点に、ぎんなんやどんぐりを拾ったり、落ち葉で遊んだり。子ども達には素晴らしい体験ですよ。



竹内美津江さん

世田谷公園プレイパークを拠点に自主保育活動(てんとう虫の会)を自らも楽しんでいる竹内美津江さん。プレイパークをとりまく自然、人、物すべてが子どもたちの教室であり、教材だとおっしゃる。

■子どもの創意を伸ばす場として
——これまで子どもの遊び場といえば、児童公園が中心だったわけですが、実は児童公園は遊具があまりすぎてゴチャゴチャしているし、子ども達もいつか飽きてくるんですね。私たちは今、世田谷公園や羽根木公園を使ってプレイパークを実施していますが、これだけの広さの公園全部を使っているわけじゃないんですね。広さでいえば幼稚園くらいの空間があれば十分なんです。でも、世田谷公園を拠点として使えることは有難いですね。何といても樹木が多くて四季の自然の変化が楽しめるでしょう。ぎんなんもどんぐりも拾えるし、落ち葉を集めてそれをパアッとかけて遊んだり、子どもたち

には素晴らしい体験ですよ。それに、この公園は起伏があり、変化に富んでいますから、子ども達の遊び場としては最高ですね。ときには、羽根木公園などの公園へ遠征することもありますが、そこを拠点にしている別の自主保育グループのメンバーと交流したり……もちろん、子どもも大人もいっしょになって。また、逆に相手グループがこちらに遊びに来たり……。

——そもそも私たちのプレイパークというのは、公園での子ども達の自由な遊びが目的なんです。それなら勝手に遊ばせればいいじゃないかと、風紀が悪いなどで安全な遊び場とはいえないところが多くて、そうもいきません。そこで、自主保育の考え方を基礎に、地域の父母と学生のボランティア、この人たちがプレイリーダーになって、自分の責任で自由に遊ぶ」ことをモットーに、自然にふれあえる屋外での遊び時間を持っているんです。なるべく大人が口出しをしないようにして、子どもに工夫する力や、やりとげる感動を持ってもらうようにしているんですよ。

——たとえば、よくボランティアの管理責任が問題になりますが、管理責任イコール危険の回避になってしまいがちなので、私たちは事故の責任は自分にとることとしていっています。だいたい、子どもというのは危険があるから注意する能力も育つんですし、挑戦してみることが自分でできることと、思っています。小さなケガを繰り返して、くうちに大きなケガをしない人間になっていくわけでしょう。

——私自身、「てんとう虫」という自主保育グループを仲間の方とつくり、自分の子どものひとつの育て方としてプレイパークに参加していますが、とても勉強になりますよ。たとえば、公園内の遊具にしても、区の公園課が作ったものではなく、プレイパークのみんなが主体になって作ったんですが、管理・点検もみんなやっていきますし、食事作りや後片付けもみんな……。そんなことを繰り返しているうちに、私たち大人にも公園はみんなのものという一種のコミュニティ意識が芽生えてきましたね。子ども達にとって何が大事なことなのか、それは私達大人にとってということでもあるのですが、そういうことがわかってきましたね。

「ついでにほしい」ではなく、「いろいろ

ことをしたいからこんな機能を」というような声を求めているんです。

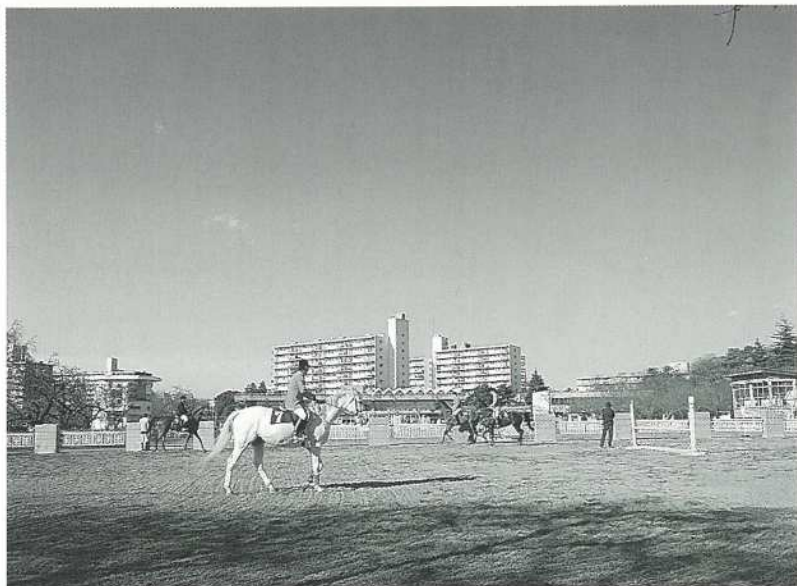
せたがや百景に公園が数多く選ばれた。そもそも世田谷の公園はどのように生まれてきたのか、また、どんな特徴があるのか、さらには、今後の公園づくりはどうあるべきか。もと世田谷区土木部公園課の本田三郎さんにうかがう。



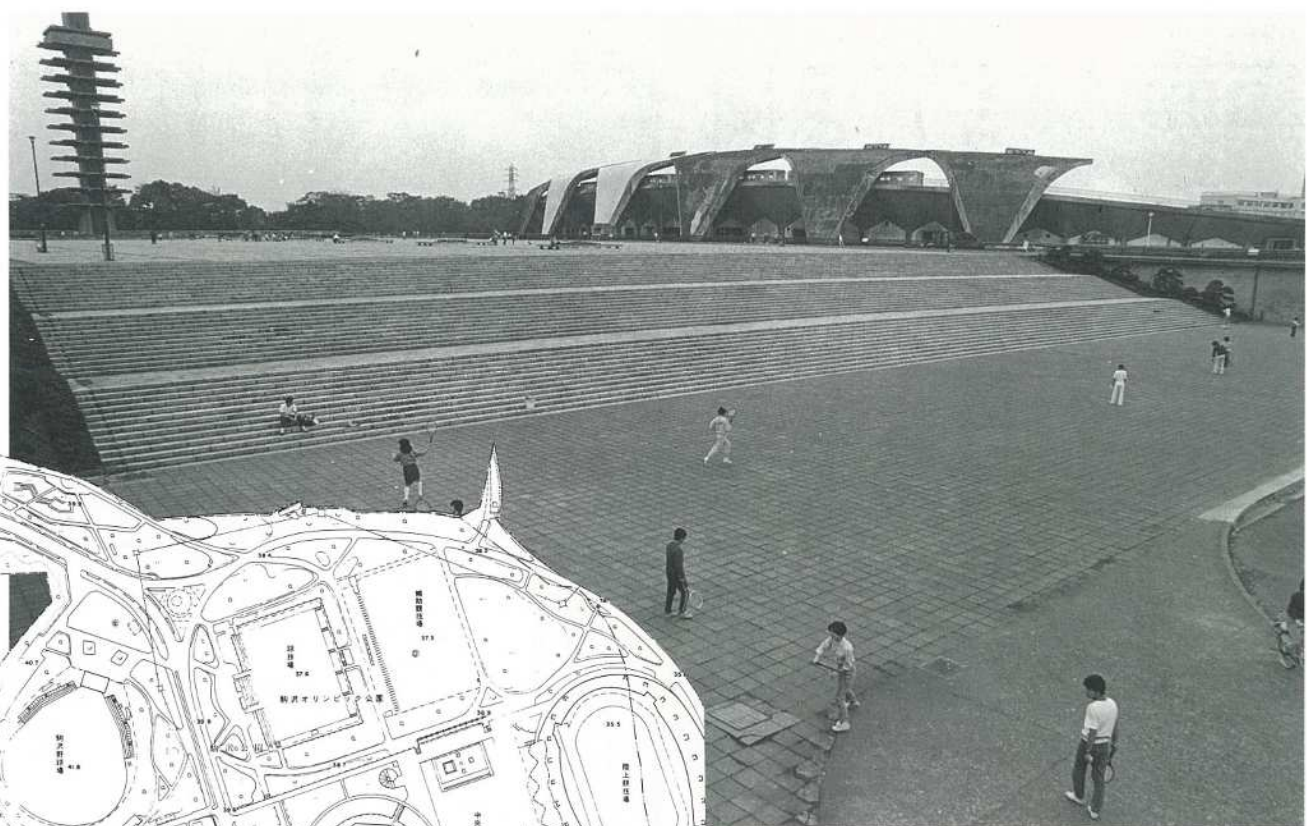
本田三郎さん



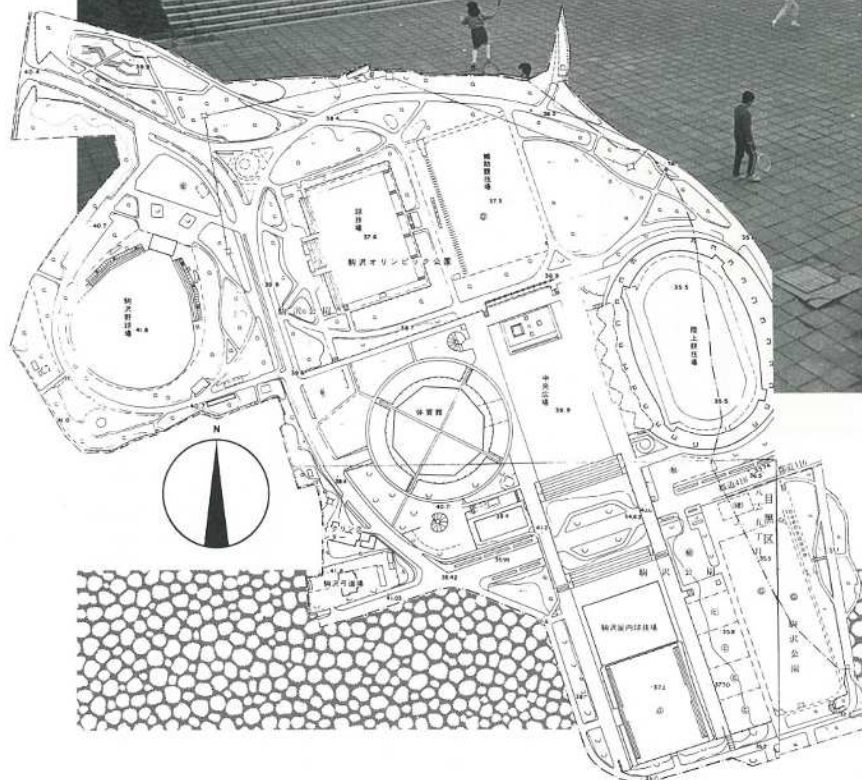
羽根木公園。梅の名所で有名。公園を生かす数々の試みが行なわれている⑦



馬事公苑。馬やポニーの姿が見られる⑧



駒沢オリンピック公園。広々としたスポーツ空間が魅力⑧



世田谷の公園

■スペースの確保からスペースの活用へ

昔、世田谷といえば首都の台所、野菜づくりの盛んな郊外でした。雑木林や川、池も多くて、水と緑のオーブンスペースがふんだんにありましたよ。それが関東大震災で都心からの流入者が増え、次いで戦後、都心で震災に遭った人々が越えてきて急激に人口が増加しました。過密になるにつれてオーブンスペースへの需要が高まり、公園づくりが始まったのです。

年代順にいうと、昭和二十年代には子どもの遊び場をつくってほしいとの声にこたえて児童遊園づくりに取り組み、昭和三十年代後半から四十年代にかけては自然とのふれあいを公園づくりに求める陳情が急激に増えたため、都市公園的なものをいれました。

個別に世田谷区の主な公園をみますと、まず、世田谷公園。ここは練兵場の跡地で、都が少し整備したあと、昭和四十年に区に移管されました。東京百年祭の記念事業として改修計画を公募し、これをもとに現在の姿にしたのです。

羽根木公園もやはり昭和四十年に都から移管されたもので、昔は六郎治山、あるいは根津山と呼ばれた雑木と笹の多い山だったんです。移管後、改修してプールもつくり、徐々に今の姿になりました。この公園は梅祭りでも有名なように、区内で最もイベントの多い公園ですね。

昔、ゴルフ場だったのが駒沢オリンピック記念公園と玉川野毛町公園です。とくに駒沢公園は、戦後の一時期、東映フライヤーズのホームグラウンドだったこともありまして、オリンピックを機に、本格的なスポーツ公園に生まれ変わったんです。

駒沢がスポーツ的なのに対し、自然の魅力を引き出すというところでつくられたのが緑泉公園と上野毛自然公園です。緑泉公園は池、樹木園、噴水を取り入れ、みんながよく集うところには人口芝を敷いてあります。将来は樹木などの観察に利用されたり、緑化相談所も置きたいと考えています。上野毛のほうは自然公園とは名ばかりの狭い地域なんです。七十本前後の八重桜をはじめ、クマザサや水性植物もありますし、キジ、リス、ウサギ、それにへびまでいるんですよ(笑)。斜面があるので小動物が生息しやすいでしょうね。ここが整備されたのも戦後で、戦争中は荒れ果てていました。このほか、区役所そばの若林公園、四〇〇メートルのトレーニングコースのある希望丘公園、中央競馬会所有の馬事公苑(世田谷の夏祭りに使われていますね)などが主なものです。これらの公園のうち、馬事公苑以外は戦争中ほとんど公有地が個人の畑になっていたのを戦後整備し、オリンピックの前年から改修しはじめたものです。

昭和四十年代の後半から今に至るまで、マンション建設を阻止するために公園をつくってほしいという要望が増えてきました。しかし、行政としては、これからはた「つくってほしい」ではなく、「私たちはこういうスポーツ、レジャーをここでしたいからこんな機能を取り入れてほしい」という声を求めているんです。そして、公園を自分たちの庭としてすすんで清掃し、管理していこうという姿勢。これが現在、世田谷区が打ち出している住民参加による公園等の管理協定やプレイパーク構想なんです。スペースの確保から市民の自主的なスペース活用へというわけです。



高野文彰さん

遠くはマレーシア、また国内でも沖縄の海洋博覧会記念公園や横浜港北ニュータウンの児童公園など、数々の公園づくりを手がけてきた高野文彰さん。公園づくりの基本は、「(against) (not with) (by) people」の四つのタイプがあると説く。

■公園の四つのタイプ

私は都市の中の公園には、次の四つのタイプがあると考えています。

ひとつは、「park against people」。行政にとって管理しやすく、利用者にとっては利用しにくい公園ですね。頑丈で退屈な遊具だけが作ってあるというような……。

もうひとつが、「park for people」。これは、行政の担当者、あるいは設計者が利用者にとって良かれと思って造ったものですが、成功した場合と住民の意向に沿わず失敗した場合の落差が大きいですね。設計者の自己満足に終わる危険性があります。

次が、「park with people」。これが今、住民参加でよくみられる、公園づくり

の過程で住民の意向を取り入れて造っていったもので、完成後の運営管理母体の育成も意図したものです。

最後に、「park by people」。これは、羽根木のプレイパークなどにみられる住民の自発的な遊び場づくりで、形を固定するのではなく、利用者の意に沿って変形可能なものです。

これらほとんどどのタイプがいいということはありませんが、最初の「against」を除いてあとの三つのタイプを併せてもいいでしょうね。

公園設計という私の仕事の中で思いつくのは、横浜の港北ニュータウンの児童公園づくりです。最初に子ども達に参加してもらい、一緒に遊びながら公園設計のアイデアを考えていったんです。ついで、父母の方にも加わってもらい、皆さんの要望に合わせて十くらいの設計案を出し、管理の問題も話し合いながら選んでいきました。こうして造った公園というのは、大人、子どもを問わず思い出に残るでしょうね。

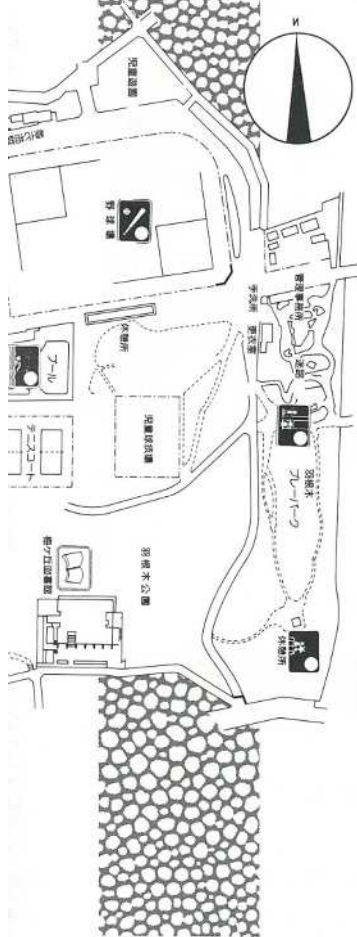
公園の風景というものを考えると、その公園が地域住民の個々の生活

とどれほど密接につながっているか、そこに住んでいる人々がどれだけその公園に思い出を持っているか、さらには、風景をつくりあげる過程にどれだけかかわっているかによって、美しさも違ってくると思います。だから私たちも、紙と鉛筆だけで公園をデザインするのではなく、ワークショップをどう組み入れていくか、そのノウハウ確立を大切にしているんです。やはり、住民参加で造っていった公園は、単に物理的な美しさだけでなく精神的な美しさ、ひとつの思い入れもプラスされるのではないのでしょうか。街路樹ひとつとっても同じですよ。街づくりに大切なのはそういうプラスチックの美しさなんだと思います。

世田谷はせっかくなので羽根木公園のように、予算が限られているなら、公園を再生して住民が参加して今ある公園を生き返らせることだってできますよ。今までの公園は器を生かしていきたくない感じもありますね。せっかくの公園に画一的な四角い体育館があったり……。もつと風景とマッチしたものに造り替えていくことも大切ですよ。

世田谷はせっかくなので羽根木公園のように、先に先駆けて新しい試みを実践しているのだから、今後、どんどん住民参加の公園づくり、公園のリフォームを進めていくべきですね。地価が高ければ地域事情に合わせて、二階建の公園というアイデアもありますし……。一緒に工夫する過程でコミュニティが育っていくのだと思います。

世田谷の公園



若林公園、アスレチックもある③



玉川野毛町公園、のびのびとした公園のスペース④



上野毛自然公園、崖線の斜面を生かす⑤



住民による実行委員会で運営されている羽根木公園のプレイパーク⑦



駒沢緑泉公園、人工芝が巧みに配置してある⑧



船橋の希望丘公園、団地の人々の憩いの場になっている⑨

一文にもならないがきれいだね。
 金がなくても、花が咲くと
 ハーツと心が明るくなつてき。

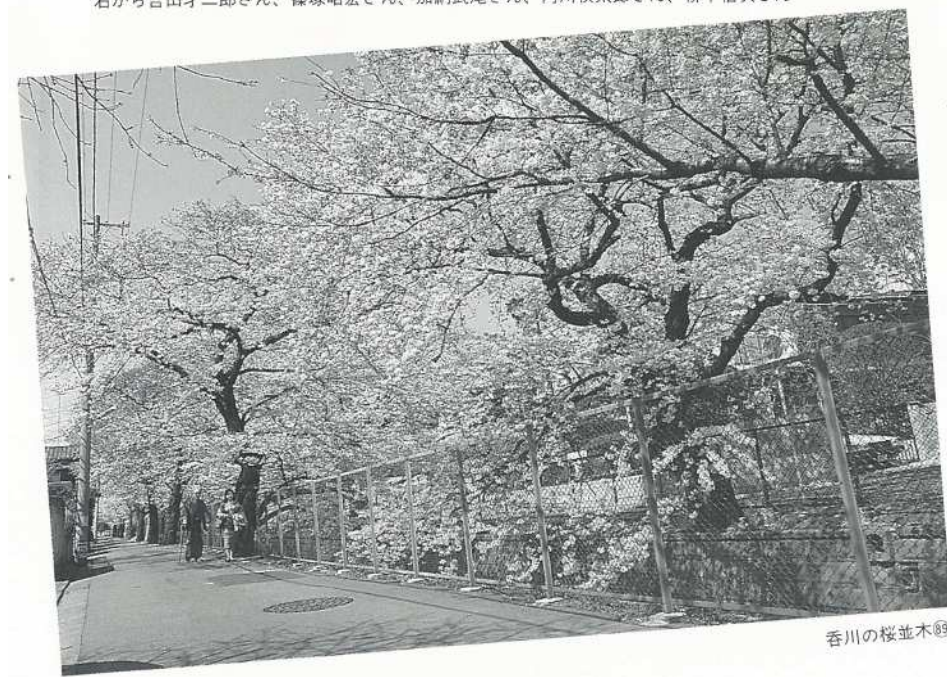
緑道と川筋のコミュニティ 北沢川緑道桜並木と代沢の桜祭り

代沢五丁目・代沢四丁目西・下
 代田西の各町会の役員の方々、
 吉田才二郎さん、加納武尾さん、
 柳下信次さん、篠塚昭宏さん、
 阿川棋太郎さんに集まっていた
 だいた。異口同音、地元の桜の
 自慢になった。

桜祭りにはたくさん人が出ますよ。
 ちょうど二十年前くらい前に始めたん
 です。当時は今のように緑道になっては
 なくて、まだ川だったんですが、ち
 ょうちゃんを飾って甘酒のサービスをし
 ようじゃないかって、代沢の商栄会が
 中心になってね。世田谷で公園以外で
 お祭りのようなものをやったのは、こ
 こが初めてじゃないかと思えますよ。
 代沢の桜祭りの実行委員会は三町
 会三商店会の連携プレーでもってるわ
 け。花見の人数は多いから、期間中は
 三日にいったんは大掃除しなくっては
 いけない。役員は浮かれながらも大変



右から吉田才二郎さん、篠塚昭宏さん、加納武尾さん、阿川棋太郎さん、柳下信次さん



香川の桜並木⑨



北沢川が流れていたころ⑩

な仕事になつてね。

一文にもならないがきれいだね。
 金がなくても咲くとハーツと心が明る
 くなつてき。わくわくして楽しい気分
 になるね。

殺風景なところに住んでいるのと、
 四季の変化があるところに住んでいる
 のとでは大違いですよ。心と体の両方
 の健康にいいでしょ。

花の見ごろは八分咲きのころかな。
 雨さえ降らなければ、そりゃあ美しい
 ものですよ。北沢川緑道は三キロつづ
 くけど、代沢が桜のいちばん美しいと
 ころですよ。鎌倉橋から淡島の車庫の
 裏まで三八〇本あります。それが緑道
 沿いにいっぺんに咲くんですから。桜
 の木の寿命も今がいちばんよいときだ
 しね。昭和の初めの区画整理のとき、
 桜を植えるのが流行っていたから植え
 たらしいけど、それが今になって実を
 結ぶ、いや花を咲かせているわけです。
 暗渠にしてふたしたところが緑道
 になったでしょう。これが花見のゴザ
 を敷くのいい。花のトンネルのなか
 で一杯やれるでしょ。あっちこっちか
 らずいぶん人が来ますよ。近所の人も
 親戚を呼ぶみたいですね。

花が終わって若葉のころもいいね。
 ただ、落葉のころは正直いって掃除が
 大変。三町会で掃除をやっています。
 でも花だけ楽しむなんてのは虫がよす
 ぎるね。世話して掃除してこそいいん
 ですよ。美しいときだけでなく、後々
 も協力してやっていかなくてはだめ
 ですよ。



北沢川緑道の桜並木⑦
 玉川上水緑道 玉川上水第2緑道



蛇崩川緑道⑧

